

桜谷軽便鉄道 南山線



2013年5月1日発行

電気機関車 ED51 とキハD11 (風の峠駅)



桜谷駅 駅舎を回りこむループがある



風の峠駅 駅舎と検車庫をループで回る



風の峠検車庫 10号電車が走るのとは本線



風の峠駅から桜谷駅方向を望む

■現役車両

種別	番号	製造年月
電気機関車	ED51	2013年4月
ガソリン動車	キハD11	2012年6月
電車	10	2011年8月
客車	ホハ7	2009年12月
客車	61	2009年4月
客車	201	2008年7月
電気機関車	デキ3	2006年7月
電車	モハ1408	2005年5月
貨車	ホト71	2004年11月
客車	ホハ150	2004年7月
電気機関車	デキ12	2004年1月
客車	302	2002年2月
客車	301	2001年12月
蒸気機関車	8	2000年11月
バッテリー機関車	7	2000年5月
バッテリー機関車	2	1997年5月
台車	16	1996年7月
台車	28	1995年8月

桜谷軽便鉄道南山線は、大阪府豊能町内で運行する、2001年8月に開通した15インチゲージ鉄道です。法規上の鉄道ではありませんので、料金を徴収して輸送を行うことはできません。

『桜谷』駅と『風の峠』駅があり、両駅間を約2分で結びます。路線名の『南山』は当地の古い地名を頂きました。『桜谷』という名称は当地で昭和のはじめまで操業していた銅鉱山「桜谷鉱山」から、『風の峠』は宮沢賢治の「風の又三郎」や「銀河鉄道の夜」のモデルになった岩手軽便鉄道の終点「仙人峠」のイメージを重ね合わせて命名しました。

■ 軽便鉄道 (けいべんてつどう) とは？

狭義では1910年に施行された『軽便鉄道法』に基づいて建設された低規格の鉄道を言いますが、一般にはJR線より軌間の狭い地方鉄道や森林・鉱山・産業用鉄道を意味して使われることが多いようです。

■ 15インチゲージ鉄道とは？

桜谷軽便鉄道は15インチゲージ鉄道です。ゲージとは二本のレール間隔のことで、15インチは381mmです。新幹線をはじめとする世界標準軌は4フィート8インチ半(1435mm)、JR線は3フィート6インチ(1067mm)が採用されています。

15インチゲージは20世紀初頭に英国の小規模鉱山や工場で使用されました。現在でも「ロムニー鉄道」や「レイブングラス鉄道」では、公共鉄道として旅客列車を運行しています。

■ 運転会のご案内

毎月第1日曜の午後1:30頃~3:00頃、南山線で運転会を実施しています。

運転会とは、どなたでも桜谷軽便鉄道の列車にご乗車いただけるイベントです。

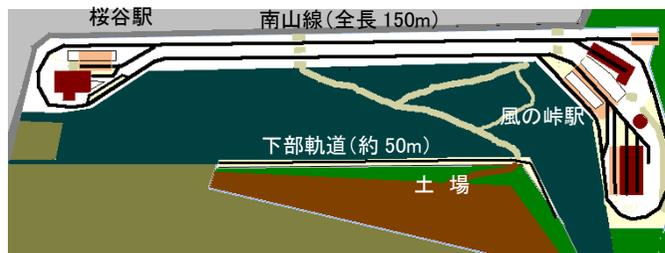
運転会の参加(見物および乗車)は無料です。運転には桜谷軽便鉄道が発行する運転免許(無料)が必要です。

駐車場はありませんのでご来場には電車・バスをご利用ください。

お体の不自由な方など、公共交通機関の利用が困難な場合はご相談ください。

■ 交通アクセス

JR宝塚線川西池田駅・阪急宝塚線川西能勢口駅から、能勢電鉄妙見口行きに乗車25分「妙見口」駅下車徒歩10分。国道477号線沿い、右手に「ときわ台」住宅地が見えると左手に家庭菜園用地「緑風台」の入り口が見えます。入り口に踏切警報機が立ち「桜谷軽便鉄道→」と書かれています。緑色の鉄門扉を入り坂道を登ると桜谷軽便鉄道があります。



下部軌道 手押し車両で運行

【桜谷鉱山】

桜谷(さくらだに)鉱山は、大阪府豊能郡豊能町内にあった銅鉱山である。明治・大正期に「銀・銅・亜鉛鉱山」として栄えたが、やがて衰退し、休山状態が続いた。ところが第二次世界大戦によって鉱山景気が起こり、この桜谷鉱山も再開発されたという。現在は、町立の中学校の敷地になり、昔を偲ぶものはなにも残っていない。しかし、現在ベッドタウンとして賑わっているこの大地の地下には、幾筋もの坑道が眠っているといわれている。

『豊能町史』には「鉱山の再開発と消滅」と題して以下のような記述が見られる。

「1920年(大正九)以降、大阪府下では鉱山の採掘は全くみられなかったが、日中戦争開始後金属の価格が高騰するとともに、ふたたび鉱山採掘の動きがあらわれ、1939年(昭和一四)からは『大阪府統計書』に鉱石販売価格が一万円程あらわれ、吉川村の桜谷鉱山が再開発されたのは1938年である。桜谷鉱山は、所在地吉川村、鉱種は銀・銅・亜鉛、坪数28,900坪、1930年(昭和五)に採掘許可を受けている。」

(日本の金属鉱山 <http://www.mining-japan.org/mine/sakuradani/> より)



戦時中再開発された桜谷鉱山

【大阪朝日新聞 1938年10月14日付】